



くれ

1015 号

2025 年 10 月 21 日

郵政産業労働者ユニオン

呉支部発行



←中国地本HPへ
PC・スマホ等からこの
情報が閲覧可！



メールはこちら→

常連のおっちゃん



※おっちゃんは呉弁マスターです

ブラックジャックによろしく 佐藤秀峰

日本郵便の不適正点呼ですが、調査報告書によれば、全国3188局のうち2391局(約75%)で何らかの点呼不備が確認されたという大規模なものです。

報告されています。現場社員の声として「周囲もやっていないから自分もやらなくていい」「点呼は面倒だから管理者がいるときのみ」など、ルール軽視・手抜き意識が確認されています。これらを勘案すると、単なる手落ち・怠慢というよりは意図的に記録を整える、実施を省くとい

報告書では、不備の原因として「意識の欠如」「ガバナンスの不足」「管理者のマネジメント課題」など、比較的ソフトな表現が使われています。「管理者が意図的に手を抜けと指示した」あるいは「現場をそのままにしておけ」というトップ命令の明文化された証拠は、現時点では公表されていません。

社長自身が「経営として知らなかったでは許されない」とコメントしており、むしろ「私たちが把握できていなかった」「監視体制が甘かった」という反省のトーンが強く出ています。

したがって、現時点では「管理者による意図的な不正」という主張を、組織の上層部まで直結させて確定するには証拠が不足しているというのが妥当な見方です。

しかし、管理者による意図的な不正である可能性は相当に高いという意見があることも事実です。特に「点呼をしないで記録だけ残す」「手を抜いても問題にならないという風土」が蔓延していたという報告は、その裏に故意・黙認の構図があったことを示唆しています。

不適正点呼問題 不正に潜む企業風土

黙認の構図

「監視体制が甘かった」という反省のトーンが強く出ています。

「上の指示には逆らえない」「慣例だから仕方ない」という旧来型の官僚的体質が根強く残っています。自爆営業が暗黙の了解として許容されてきた企業文化・風土の硬直性が根本原因ともいえます。

要するに、「成果主義」「旧態依然の体質」「現場軽視」の三つが自爆営業の原因であり、不適正点呼は生まれるべくして生まれた企業風土だと言えるのではないのでしょうか。

自爆営業にも

これは自爆営業の問題にも直結しています。厳しい販売目標が課される中「義務的に」達成しなければならぬ空気が強く、現場では「数字を埋めるために買うしかない」状況が生まれています。

また、営業成績が昇進や賞与に直結するた

今後の予定

● 11月11日(火) 17:00～
第3回呉支部執行委員会
支部事務所

● 11月21日(金) 18:30～
呉支部忘年会
鳥長